

平成26年度 理学部後援会予算

収入の部

費 目	金 額(円)	摘 要
繰越金	2,166,349	H26入学生の一部、編入学者の入会金含む
後援会費	4,000,000	・入学生会予想率(約80%) ・過年度入学生会者 ・次年度入学予定者の一部
預金利息	370	
合 計	6,166,719	

支出の部

費 目	金 額(円)	摘 要
事業費	4,070,000	保護者への案内・通信 220,000円 新入生保護者懇談会 180,000円 学習・実験設備等充実 2,700,000円 学生支援 100,000円 理学祭補助 40,000円 海外語学研修等助成 400,000円 印刷費(会報) 330,000円 その他卒業祝賀会補助など 100,000円
事務費	40,000	事務用消耗品類 20,000円 振込手数料 20,000円
会議費	50,000	総会、理事会(弁当、お茶など)
人件費	150,000	事務員手当
小 計	4,310,000	
繰越金	1,856,719	H27年度入学生会金含む
合 計	6,166,719	

平成26年度 理学部後援会予算収支中間報告

収入の部 (2014.4.1～2015.1.31)

費 目	金 額(円)	摘 要
繰越金	2,166,349	H26年度入学生預り金含む
会 費	1,800,000	H26入学生会
会費預り金	160,000	H27年度入学生預り金
利 息	199	
合 計	4,126,548	

支出の部

費 目	金 額(円)	摘 要
事業費	3,518,474	保護者への連絡・成績表送付・広報等 288,574円 実習・実験等設備充実 2,700,000円 新入生保護者懇談会 156,000円 学生支援謝礼 22,900円 海外科学英語研修補助 280,000円 学生表彰図書カード代 71,000円
事務費	25,182	後援会費振込手数料負担分
会議費	45,500	
人件費	189,730	
合 計	3,778,886	

◆理学部後援会への入会について(お願い)

理学部後援会は、平成16年12月に「学生の教育活動及び就職活動等の支援」を目的に設立され、これまで多くの支援を行ってきました。
保護者各位におかれましては、後援会設置の趣旨をご理解いただき、ぜひともご入会くださいますようお願いいたします。
会費／学部学生：20,000円、編入学生：10,000円(いずれも、入学時のみ。)

富山大学理学部後援会

〒930-8555 富山市五福3190
TEL 076-445-6143 FAX 076-445-6142
HP <http://www3.u-toyama.ac.jp/safs/>
e-mail safs@sci.u-toyama.ac.jp

平成26年度 理学部後援会役員

会 長	樫田 幸次(4年生理事兼任)
副会長	針山 悟(4年生理事兼任)
副会長	渡邊 了(地球科学科教授)
理 事	清水 正明(理学部長)
理 事	各学年2名 計8名、各学科教員6名
理 事	松永 豊(賛助会員)
理 事	高井 正三(賛助会員：総合情報基盤センター教授)
監 事	河西 義一(正会員：3年生理事兼任)
監 事	岩坪 美兼(教 員：生物学科教授)

平成26年度卒業予定者の進学・求職・就職の状況

	男	女	合計
① 卒業予定者数	166	61	227
② ①のうち進学者数	69	25	94
③ 進学率【②／①(%)】	41.6	41.0	41.4
④ ①のうち求職者数	79	32	111
⑤ ④のうち就職内定者数	72	32	104
⑥ ⑤のうち富山県内	20	9	29
⑦ ⑤のうち富山県外	52	23	75
⑧ 内定率【⑦／④(%)】	91.1	100.0	93.7

平成27年2月末日現在

平成26年度 理学部学生表彰

表彰の基準は「特に成績の優れた者」です。
理学部全体から1名の学長表彰者、各学科から3名の学部長表彰者が選ばれています。

数学科

須 藤 拓 也
平 野 孝
浅 田 祥 広

物理学科

青 木 俊 紘
北 山 栞
斎 藤 伸 明

化学科

中 嶋 陽
弓 弦 一 哉
今 村 嶺

生物学科

●松 井 亮
林 大 輔
瀧 沢 美 翔
高 橋 郁 佳

地球科学科

柳 瀬 篤 志
露久保 元彬
大 瀧 莞 司

生物圏環境科学科

増 田 拓 也
金 田 朗
渡 邊 祐 二

●は学長表彰者

編集後記

理学部後援会報10号をお届け致します。理学部の6学科の中で生物学科、地球科学科、生物圏環境科学科の3学科では野外での実習が行われております。富山県内の恵まれた自然を活用した実習の他、県外で実習を行うこともあります。北陸、国内、さらには海外での各地域の特徴を活用した研究を行っている学生もおります。そのような野外での実習や研究で得た多くの体験は生涯忘れるものではありません。学生の皆様の日々の生活、学習、研究を本号を通して御理解いただければと思います。(理学部広報委員会委員 岩坪 美兼)



富山大学理学部後援会報

りっか

数学科

物理学科

化学科

生物学科

地球科学科

生物圏環境科学科

第10号 2015.3

後援会報の名称「りっか」とは…

「りっか」とは、雪の異称であり、漢字では六花と書きます。六角形の結晶の麗姿を花にたとえています。私たちの理学部章は雪の結晶がモチーフとなっています。全国でもまれな、6学科から構成されている理学部であることを象徴しています。

ごあいさつ

理学部後援会会長 榎田 幸次

暖春の候 後援会会員の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

今般、理学部後援会報「りっか10号」を発行することができましたのもひとえに皆様のご理解、ご支援の賜物と感謝しております。

さて、構想から半世紀、地元富山、石川県民が待ち続けた北陸新幹線が3月14日に開業しました。これにより、北陸経済界がどのように移り変わり発展していくのか注目を浴びています。わが富山大学におきましても同様です。

今までと同じことをしてはいけません。常に『付加価値を高める』ことを意識していくことを学生の皆様は心掛けて下さい。現状に満足しては、進歩はありません。社会に出てからも同じことが言えます。

後援会といたしましても、理学部長をはじめ学校関係者の皆様との連絡を密にし、より良い教育環境に向けて支援に努めて参りますので、会員の皆様におかれましても、今後とも理学部後援会にご支援賜りますようお願いいたします。



保護者の皆さま

理学部長 清水 正明

理学部の教育に対し、日頃より深いご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。本年度は、学部卒業生227名、大学院（修士課程）修了生52名、大学院（博士課程）修了生6名が社会に巣立ちます。学生ひとり一人の努力と保護者の皆さまの支援の成果であり、自信を持って社会に送り出せます。

実用英語力を身につけ、就職や進学で有利になるために、昨年度の新入生から、新入生のほぼ全員が国際標準のひとつのTOEIC-IPテストを受験し、e-ラーニングなどで英語を学習しています。同窓会と連携したキャリア支援講座などの就職対策もますます充実してきました。大学院生では、国際学会での講演や学会誌への投稿が増加しています。

昨年度、理学部の教育・研究における強みや特色などについて、文部科学省と話し合いを行った結果、理学部の教育・研究が国際的通用性を持っていることが再認識されました。今後も理学部は、しっかりと基礎学力を教育し、それに基づき、イノベーション創出につながる研究指導を通して、社会に貢献できる有能な人材を育成してまいります。そして、保護者の皆様との連携を密にとりながら、ますます強みや特色を強化していく所存ですので、今後ともさらにお力添えのほどなにとぞよろしくお願い申し上げます。

平成27年度 キャンパススケジュール

CAMPUS SCHEDULE

4	○ 入学式 ○ 新入生オリエンテーション ○ 授業開始(前期)	◆ 新入生保護者懇談会
5		
6	○ 第3年次編入学試験	◆ 北陸地区 国立大学体育大会 ◆ 後援会理事会・総会
7		
8	○ 期末試験 ○ 夏季休業開始 ○ 大学院入学試験	◆ オープンキャンパス ◆ UTAR(マレーシア)への語学研修
9	○ 集中講義	◆ サイエンスフェスティバル
10	○ 授業開始(後期)	◆ 開学記念日 ◆ 大学祭 ◆ 北陸三県大学学生交歓芸術祭 ◆ 就職・進学合同説明会
11	○ 推薦入学等特別選抜試験	
12	○ 冬季休業開始	
1	○ 授業再開 ○ 大学入試センター試験	
2	○ 期末試験・集中講義 ○ 卒業論文発表会	
3	○ 入学試験(前期) ○ 入学試験(後期) ○ 学位記授与式	

私は、太陽光発電と空気中の微粒子の関係について研究しています。気候変動に興味があり、微粒子のエアロゾルがどういふふうに気候に影響を与えるのか知りたくて、この研究を選びました。小さい頃から雲が好きで、よく空を見て天気を観測したりしていました。今でも天気予報を見るのが大好きです。春からは気象庁に就職します。将来の夢は、予報課に入り、天気予報に熟練して、外国に技術を教えるに行くことです。



かまくら 幸次郎さん
数学科4年生

私のゼミでは、ベクトル解析を研究しています。1年間で1冊の教科書を、5人のゼミ生が交代で研究・発表し、先生にアドバイスをいただいて、その場で解いていく形で進めています。先生がとても良い方で、このゼミに入って良かったと思っています。銀行に就職が決まっていますが、就職活動でエントリーシートを書く時に必要な論理的な思考が、この4年間で身に付きました。



いもどう ともこさん
地球科学科4年生

魚を利用して、動物の行動とホルモンの関係について研究しています。ホルモン以外の複雑な相互作用もあり、実験結果が一定しないのが難しいところですが、結果が出て、そこから考察をしていく時が一番楽しいです。春からは塾の講師として、理科や数学を教えます。生徒が目標や夢を持って、進学するサポートをしていきたいと思っています。



しまざき ゆうきさん
生物学科4年生

理学部 フィールド・オブ・ドリームス

研究室やフィールドで、日々独創的な応用研究や、環境問題に関する研究、実験に励む理学部の学生たち。彼らに、研究への思いや将来の夢について語ってもらいました。



かしわ まさきさん
化学科4年生

ランタノイド錯体の合成と、その電気化学的性質について研究しています。新しい錯体を合成できた時はうれしく、頑張ったかいがあったと実感します。高校の頃に入っていた科学部で化学反応に興味を持ち、化学科に進みました。卒業後は塾の講師として、大学での体験談や実験の映像などを通して、理科の面白さを伝えていきたいと思っています。



あいどう もえみさん
物理学科4年生

富山湾に生息しているムラサキインコガイを対象に、高温にさらされた時に発現する熱ショック蛋白質「Hsp70」の遺伝子の検出と解析を行っています。将来的には、海水汚染のバイオマーカーとして利用できるのではないかと考えています。大学を選ぶ頃に環境問題が話題になっていたこともあり、地球環境に興味を持ち、この学科を選びました。生物圏環境科学科は、化学的なことや生物的なことなど、幅広く学べて楽しいです。



やまざき かななさん
生物圏環境科学科4年生

近赤外線領域での、トリチウム水の分光について研究しています。放射性物質を扱うので気を遣いますが、高校の頃から物理が好きだったので研究は楽しいです。以前から医療系の仕事に就くことが夢で、卒業後は北海道大学の大学院に進学し、放射線を用いた医療に携わる医学物理士への道を目指します。

野外実習・研究の体験で 得たこと

生物学科・地球科学科・生物圏環境科学科では、様々な野外での実習や研究が行われています。屋内では体験できない面白さ、発見、そしてアクシデントがあるのが、野外実習です。学生の皆さんに、特に印象に残った体験や、実習を通して身についたことについてお話を聞きました。

——生物学科では、動物群集、植物、海洋生物を対象とした野外実習を行っているとのことですが、どのような実習をしているのですか？

松田 氷見市の河川の魚を対象に、外来の魚が在来^{しよ}の魚にどう影響を与えているか、在来種はどのような状況にあるのか調べています。1年生の頃は、1週間に4～5回は通っていました。

豊岡 立山で、遺伝子から見た雷鳥^{らいちょう}の血縁などの、集団構図を研究しています。雷鳥の糞^{ふん}からDNAを解析する実験手順の確立を卒業論文で研究したので、修士ではこの手順を生かして、さらに詳細な集団を見ようと思っています。

——実習や研究で大変だったことは何ですか？

松田 川に仕掛けたもんどり籠を引き上げて、魚をバケツに移し、それを氷見の研究室まで運ぶなど、一人ではできない研究だったので、協力者との連絡事項が大切だということを痛感しました。やってみないと分からないことも多いのですが、それを想定して下準備しないといけないのも大変でした。

豊岡 雷鳥が糞をするまで、ひたすら待つのですが、なかなか糞をしてくれない時、してくれたけれど崖だったために諦めざるを得ない時はつらかったですね。吹雪に遭遇して、大変な時もありました。

——実習や研究でうれしかったことは何ですか？

松田 予想通りに実験結果が得られた時は、すごく楽しいです。それと移動時間の合間に、同行者と会話したり、お弁当を食べたり、パソコンの前で座っているだけではできない経験ができ

ました。

豊岡 雷鳥が見られると、疲れも吹き飛びますね。立山の雷鳥は人懐こくて、かわいいです。

——どうしてこの研究をしようと思ったのですか？

松田 昔から遺伝子に興味があって、遺伝的多様性に関与したいと思っていた時に、レッドデータブックに掲載されたタナゴが氷見に生息していると知り、研究内容を決めました。

豊岡 もともと鳥が好きで、鳥の研究をしたいと思っていました。どの鳥を研究しようか悩んでいた時に、たまたま石川県の動物園で雷鳥を見て、あまりのかわいさに雷鳥を研究することを決めました。研究室が魚対象だったのですが、先生に相談したところ、「協力してあげよう」と言ってくださって、とても感謝しています。

——実習を通して身についたことは何ですか？

豊岡 雨だろうが吹雪だろうが、雷鳥の糞のために我慢しているうちに、忍耐力が付きました。

松田 実習では初めて経験することが多くて、分からないことが起きても、その場ですぐに対応することが必要でした。おかげで、臨機応変に物事に対応する力が付いたと思います。



大学院 理工学教育部 修士課程
生物学専攻2年生
まつだ えみ
松田 絵美さん



——地球科学科では、地球科学の調査法や考え方を理解するための野外実習を行っているとのことですが、どのような実習をしているのですか？

山村 僕は、とある鉛・亜鉛スカルン鉱床の鉱化作用について研究しています。栃木の廃坑になった鉱山まで、泊まりがけで調査に行っています。

濱元 泥火山の地盤変動について研究しています。新潟の十日町市まで、先生の車で研究室の仲間と4人で3日ほどかけて調査に行きます。何カ所も点ごとの上下変動をミリ単位で水準測量していきます。

——実習や研究で大変だったことは何ですか？

山村 坑内は真っ暗で、狭い所は四つん這いになって進むこともあります。山中は熊などに出会う恐れもありますし、



地球科学科4年生
はまもと としき
濱元 俊綺さん

何度か崖を滑り落ちたりもしました。時間配分を間違えて真っ暗な中を下山した時は怖かったですね。

濱元 ミリ単位で誤差が出てしまうため、何度も測り直すので、精神的につらいことがありますね。

——生物圏環境科学科では、立山や富山湾など富山の自然環境、および県内の環境関連の施設を利用した環境科学に関するフィールド教育を行っているそうですが、どのような実習をしているのですか？

中村 立山でマルハナバチの研究をしています。今は、標高間の移動が本当に起きているのか、巣場所の推定を調査しています。

針山 黒部の嘉例沢森林公園や、北海道の旭川で、マルハナバチの女王蜂に寄生する寄生虫について研究しています。

——実習や研究で大変だったことは何ですか？

中村 天気が悪くてデータが取れないとつらいですね。去年は天気が悪くて、あまりデータが取れず、今年こそは！と思っています。



生物圏環境科学科4年生
はりやま たまみ
針山 珠美さん

針山 中村さんと同じく、天気が悪いとデータが取れないのが大変です。それと、私の研究は、連続で天気が良くないといけないのが大変です。

——実習や研究でうれしかったことは何ですか？

山村 危険を伴う調査ではありますが、日常では見られない石を採取できるのは嬉しいですね。自然の中で鉱物の自形結晶を見つけた時は感動しました。

濱元 たまたま地震があったのですが、自分が取ったデータで、地震の影響が分かった時にはうれしかったです。

——実習で得たものを、今後どう生かしていきたいですか？

山村 僕はサイエンスコミュニケーターを目指しています。科学は、相手にどうしたら興味を持ってもらえるか、どう伝えるか、を考えることも大切です。今の研究で身に付けたことを活かして、子どもたちに科学の面白さを伝えていきたいと思っています。

濱元 火山の研究もそうなのですが、人の役に立つことをしたいとずっと思っています。就職先が鉄道関係なので、これからもたくさんの人の生活を支えていきたいです。



大学院 理工学教育部 修士課程
地球科学専攻1年生
やまむら てつお
山村 哲生さん

——実習や研究でうれしかったことは何ですか？

中村 初めてやった実験だったので、餌場作りも試行錯誤でした。私が作った餌場に、ハチが初めて戻ってきてくれた時にはうれしかったですね。

針山 呉羽山での予備実験で、放したハチがちゃんと戻ってきた時はうれしかったです。

——実習を通して身についたことは何ですか？

中村 私は、内向的で人と関わるのが苦手だったんです。それが、研究をしたり、学会で発表したりするうちに、行動力が身に付きました。それに、研究室の仲間がみんな外が大好きで、一緒にキノコ取りに行ったりしているうちに、コミュニケーション能力も付いたと思います。

針山 今まで出来なかったことが、できるようになったのが大きな変化です。標本を作れるようになったり、アールという統計ソフトを使えるようになったり……。新しいことができるようになったのがうれしいです。



大学院 理工学教育部 修士課程
生物圏環境科学専攻1年生
なかむら ゆか
中村 友香さん

学生による学生のための 研究者レポート

—理学部の若き研究者たちの最新情報を公開—

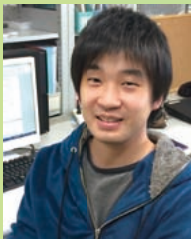
理学部の学生はどんな研究をしているのだろう、と思われたことはありませんか？ここには、学生が先輩たちにインタビューして、その研究内容を分かりやすく紹介した記事を掲載しました。今後も、少しずつ紹介していきます。

インタビュー × 鈴木 碧

立川 竜行 猪俣 昂大 宇野 将太
古畑 貴行 金岡宏太郎 早野冴由希
前田 萌子 山口瑛真里

File #011 ▶

鈴木 碧 (すずき あおい)
富山大学大学院理工学教育部地球科学専攻2年
出身地：山形県朝日町
趣味：テニス、歩くこと、麻雀
好きな食べ物：中華料理(ギョーザ、チャーハン)



インタビュー × 加川 智大

足立 明生 天井 涼 金谷 知幸
鎌田 愛里 桐井 真 清水 政宏
萩原 恵 福寿 優介 本田 康人

File #012 ▶

加川智大 (かかわ ともひろ)
富山大学大学院理工学教育部物理学専攻1年
出身地：大阪府枚方市
好きな食べ物：ミルクレープ
好きな映画：ただ、君を愛してる



掘らずにわかる!?! レーダー探査

レーダー探査をご存知だろうか。レーダー探査とは目に見えない地中の構造をレーダーと呼ばれる装置で調べることで、おもに遺跡調査などに用いられる。遺跡調査は、地中に埋もれた遺構や遺物を発掘し、過去の人々の生活などを調べるが、傷つかないよう事前に地中の構造を調べ、掘るポイントを決めておかねばならない。レーダー探査は、遺跡を傷つけることなく、簡単に地中の構造を調べることができる便利な方法だ。今回はこのレーダー探査について研究している鈴木さんにお話を聞いた。

■ 測定方法

大まかな手順としては、調査する範囲を指定し、その範囲内で装置から地中に電磁波を飛ばし、はね返ってきたものを受信する。これを一定間隔ごとに行う。

電磁波の送受信をするアンテナには波長の長いアンテナと、短いアンテナがある。2種類ある理由は、波長によって調べることができる深さ・精度が違うためである。波長が長いアンテナは地中深くまで調べられるが、大まかにしか調べられず精度が悪い。そのためこのアンテナは測定の最初に使う。一方、波長が短いアンテナは浅いところまでしか調べられないが、精度よく調べることができるため、地中の構造を詳しく知るのに向いている。

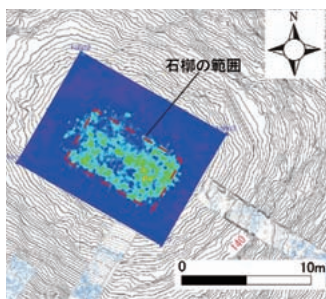


レーダー探査をする鈴木さん

■ 鈴木さんの研究

鈴木さんの専門は「地球電磁気学」だ。電磁波を利用するレーダー探査を通して、手を触れたり壊したりすることなく、地中の構造を探る研究をしている。4年生時は卒業研究で愛

知県犬山市にある国指定史跡である東之宮古墳をレーダー探査した。2種類のアンテナを使い、8m×13mの範囲を2回に分けて調査した。その後、古墳の発掘調査の許可が降りたところで、鈴木さんたちが行った調査の結果をもとに実際の発掘調査が行われた。その結果石室などが確認された。現在は北海道のアイヌの遺跡を中心に調査を支えている。



東之宮古墳のレーダー探査結果。色の濃淡で反射の強度を表している。黄色い部分がより強い反応を示す。



発掘調査で見つかった石室。

■ Q&A

Q. この研究を選んだ理由

A. 実は卒業研究で研究室を選ぶときに興味を持っていたのは雷の研究だったんですよ。でも、ほかにも雷の研究をしたい人がいたため、その人とは別の研究テーマを探すことにしました。そこで、以前先輩について遺跡調査を経験したことや、もともと遺跡に興味があったこともあり、今の研究を始めました。

Q. この研究をしてうれしかったことやつらかったこと

A. 北海道に調査で行った時もそうですが、結構つらい環境や天気が悪い時は大変です…。それで思うような結果が出ないときは心が折れますね (笑)。でもやっぱり結果が出たときはすごくうれしいです。

Q. 後輩へのアドバイス

A. せっかく大学ってとこに入って色々勉強もできるし、遊ぶこともできるし、自分のお金、バイトとかで貯めてるし、やれることは今のうちにしかできないなって社会人の人も皆言うるので、やれるときに、好きなことやったらいいと思います。

アインシュタインへの挑戦

皆さんは物理学にどのような印象を持っていますか？「難しそう」、「つまらなさそう」などの印象を持っている方も多いのではないのでしょうか。しかし、そのつまらなく難しい物理学に情熱を燃やし、日夜研究に励んでいる大学院生がいます。今回はそんな1人、加川さんをご紹介します。

■ 時空のさざ波“重力波”

加川さんは重力波望遠鏡 KAGRA (かぐら) の建設プロジェクトの一端を担っています。約100年前、かのアルベルト・アインシュタインが創設した重力の法則、一般相対性理論。そのなかで、アインシュタインはある予言をしました。この宇宙にはあちこちに「重力波」が飛び交っているということです。重力波というのは、重力の影響がさざ波のように伝わっていく現象です。これを直接観測することに成功すると相対性理論の正しさを再確認できるだけでなく、光や電磁波を使う従来の望遠鏡よりもさらにクリアに、鮮明に宇宙を観察することができます。そして今までわからなかった様々なことが発見できると期待されています。さらに研究が進むと宇宙誕生の秘密を探ることができるとも言われています。しかし、残念ながら現在もまだ直接の観測には至っていません。そしてその観測に成功したらノーベル賞間違いなしとまで言われており、世界中の研究機関がしのぎを削っています。日本でも、様々な大学が共同でプロジェクトを立ち上げ、KAGRA の建設が進められています。

■ 科学って、楽しくないですか？

加川さんはその重力波観測のプロジェクトのうち“レーザー強度の安定化”にチャレンジしています。レーザーを使って重力波を観測する KAGRA ですが、非常に小さな重力波信号を観測しなければなりません。そこでその元となるレーザーの強さをぶれないように安定に保ち、少しでもノイズが小さくなるようにしなければなりません。この研究が重力波

観測成功のカギとなります。随分と難しそうですが、加川さんは「毎日楽しいですよ」と言います。「強いて言えば、実験がうまくいくとすごく楽しいです。基本、上手いかないですけれど (笑)。装置を試行錯誤しながら改良してうまくいったら楽しいですね。それに自分の成長を感じられます」と語ってくれます。共同研究をしている東大の宇宙線研究所や、設備のある岐阜県の神岡などいろいろな所に出張で飛び回っている加川さんにとって、富大の先生だけでなく東大の先生や外国人研究者の方とたくさん会って話すのも楽しいのだそうです。

また、「プロジェクトなんで、緊張感があります。自分がやらないと色々な人に迷惑がかかりますから」とも言っていました。やはり、大きなプロジェクトであるだけその責任も大きいのだとか。しかし一方で、重力波に限らず“科学”の好きな所を尋ねてみると、「やっぱり、科学って、楽しくないですか？」と即答されてしまいました。取材中も終始笑いが絶えず、加川さんの科学が大好きだという気持ちがにじみ出ているようでした。

また、「プロジェクトなんで、緊張感があります。自分がやらないと色々な人に迷惑がかかりますから」とも言っていました。やはり、大きなプロジェクトであるだけその責任も大きいのだとか。しかし一方で、重力波に限らず“科学”の好きな所を尋ねてみると、「やっぱり、科学って、楽しくないですか？」と即答されてしまいました。取材中も終始笑いが絶えず、加川さんの科学が大好きだという気持ちがにじみ出ているようでした。

■ 取材を終えて

研究はやはり大変なことも多い、というより大変なことの方が多くと思います。しかしそれでも加川さんは、日夜研究に励んでおられます。研究室に泊りがけで没頭することもあるのだとか。そんなことが何の役に立つのか。なぜそんなことをするのか。物理を専攻している私たちはしばしば尋ねられます。しかしそんなことは加川さんにとっては愚問なのです。面白い。楽しい。科学を研究する動機はこれだけで充分。それだけを起爆剤にどれだけでも頑張れるのです。私たちも科学者のたまごとして、加川さんの姿勢に強い憧れを持ったのでした。

これらの研究紹介記事は、「科学コミュニケーションⅡ」の講義（主講師：元村有希子(毎日新聞社)）で作成したものです。